宍道湖自然館におけるシラウオの繁殖について

田久和　剛史（島根県立宍道湖自然館ゴビウス）

シラウオ *Salangichthys microdon* は，宍道湖を代表する魚の一つであり，島根県立宍道湖自然館では，2001 年の開館以来，人工授精を行い，飼育が困難とされる本種の育成に取り組んできた．2016 年からは，ホシザキグリーン財団の事業として本種の量産技術開発を進めている．シラウオの寿命はおよそ 1 年と短く，また漁期が限られることなどから，安定した展示を行うためには，飼育下での繁殖，育成は重要である．

そのための方法として，人工授精と自然産卵による繁殖が挙げられる．人工授精による採卵では，成熟した個体を確保できれば，計画的に受精卵を得られるメリットがある．しかし，ふ化数にばらつきが見られること，用いた個体はその時限りといった課題がある．一方，自然産卵による採卵については，親魚を産卵に適した環境で飼育する必要があり，当館ではこれまで成功していなかった．

2016 年，これまでの飼育技術をベースとしながら，飼育環境や餌の組み合わせを見直し，より自然に近い環境で飼育した結果，事業 1 年目で人工授精によって生産したシラウオが順調に成育し，2017 年 2 月頃より，複数の抱卵個体が見られるようになった．そこで，観察を続けていたところ，同年 3 月に水槽内で受精卵を回収でき，当館での自然産卵が確認された．その後，一定の期間に渡って，自然産卵によるふ化仔魚が得られた．

この結果と当館での繁殖状況をふまえ，今後の展望について発表する．

自然産卵によって生まれたシラウオ（仔魚）